

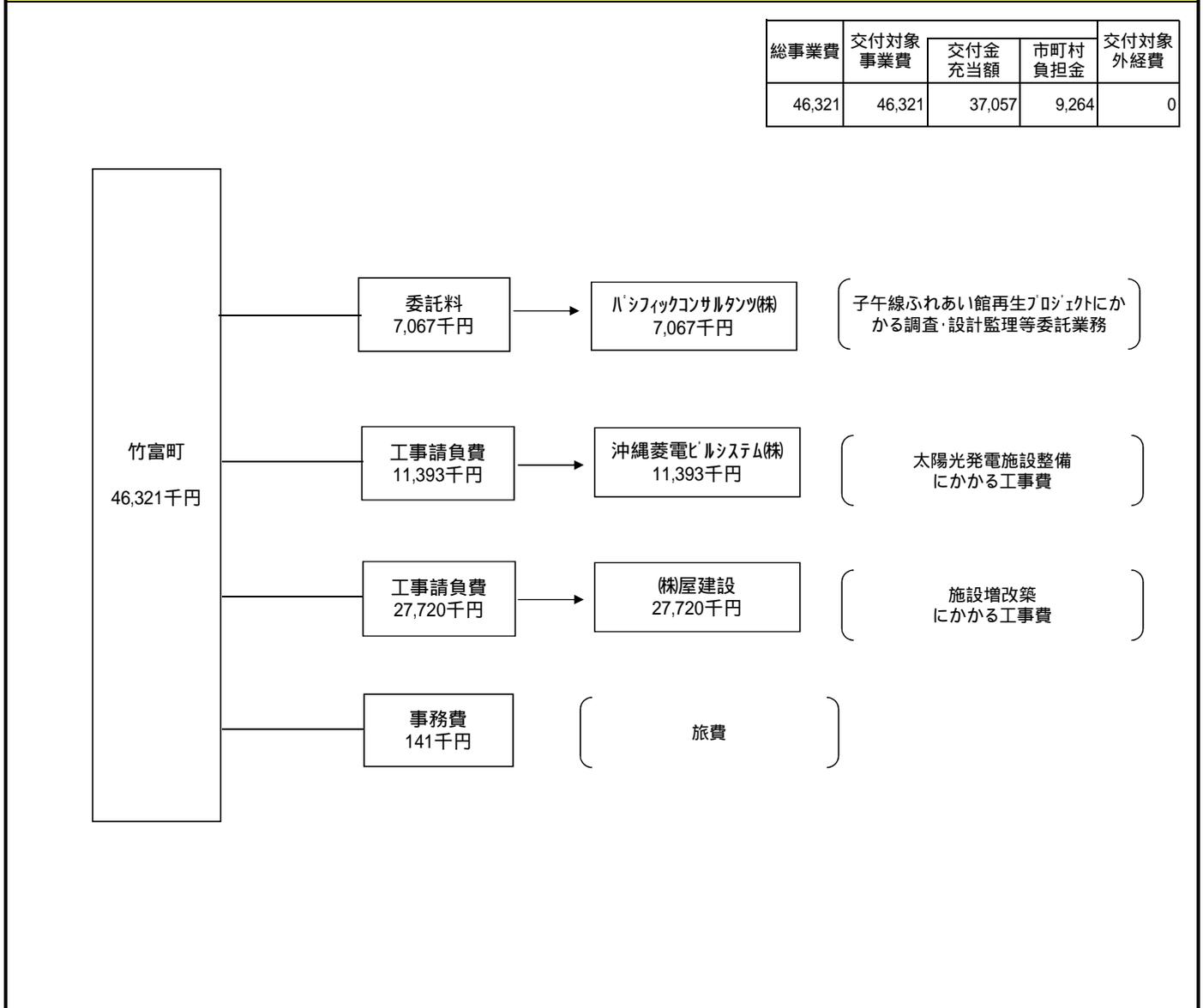
市町村名		竹富町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-	子午線ふれあい館再生プロジェクト事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	企画財政課		事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 -1-(1)		
事業内容	西表島西部地区祖納集落内にある「子午線ふれあい館」を、再生可能エネルギーなどを取り入れた、地区の伝統文化や工芸品等の発信拠点として、地域の住民と観光客との交流を図るため、本事業により施設の機能強化整備を行う。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
		(a)当初予算額		48,000	-			
		(b)予算現額		48,000	-			
		(c)増減額(b-a)		0	-			
		(d)繰越額		-	42,093			
		A.計(b+d)		48,000	42,093			
		B.執行済額		5,377	40,944			
		うち交付金充当額		4,301	32,756			
		次年度繰越額		42,093	-			
		執行率(%) (B/A)		11.2%	97.3%			
予算の状況の説明		様々な住民の意見を反映する設計とするため、地域住民との意見交換会を実施したが、その意見集約に時間を要し、工事着工に遅れが生じて年度内完成が困難となったため、事業繰越となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	子午線ふれあい館の再生整備 ・厨房施設の整備 ・駐車場整備 ・電気自動車充電器設置 ・太陽光パネル設置	目標	(子午線ふれあい館の各種整備)	()	()	()	()	
		実績	子午線ふれあい館の各種整備完了					
			目標	()	()	()	()	
		実績						
達成状況説明	施設に電気自動車急速充電器を一基導入、太陽光発電パネル(10kWh)の設置、厨房設備の増設に伴う増築(25㎡)整備、駐車場スペースを増加(7台から12台)することにより、地域住民の多くの意見を取り入れた、地区の伝統文化や工芸品等の発信拠点として観光客と地域住民が触れあう交流施設へとリニューアル整備することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	子午線ふれあい館の再生整備 ・厨房施設の整備 ・駐車場整備:7台 12台 ・電気自動車充電器設置:1基 ・太陽光パネル設置(10kW)	目標	(駐車場7台)	駐車場12台、急速充電器1基、厨房施設、太陽光10kw	()	()	()	()
		実績		駐車場12台、急速充電器1基、厨房施設、太陽光10kw				
	[参考指標]		目標	()	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明	当初目標としていた、子午線ふれあい館の再生整備を完了した。本町西表島内における、自然環境へ配慮した再生可能エネルギーを導入し、施設運営のコスト削減へも取り組んでいる。さらに、「道の駅」に準ずるような機能を備えた地域住民と観光客との交流のふれあいの場所としても活用してもらえるよう、施設の増築により簡易的な飲食スペースも確保した。この施設を拠点とした地域活性化を推進していく。							

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営に携わる地域住民の参加形態の検討及び地域活性化のため、観光客との交流プラン(伝統工芸品教室等)の協力体制の構築等、地域住民主体の様々な意見を集約する。 急速充電器・太陽光発電システム等の町内公共施設初となる導入のため、設備維持管理について地元住民との調整を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果の公表、地域住民との定期的な連絡協議会等を開催することにより、当該施設の現状を把握し、施設運用に関する地域公民館との意見交換や、整備された設備(急速充電器等)の講習会を実施していく。 観光客への施設利用促進のため、周辺の宿泊施設と提携した交流イベントや、地元観光関連業者と提携し、大型バスによるツアー客の導入等を検討したい。

今後の取り組み方針

- 施設を指定管理する地元公民館と定期的に施設の現状等を報告してもらい、設備の運用状況や利用観光客数等を把握し、適切な施設運営確認を行う。
- 地元観光関連業者と提携した交流イベントや、大型バスによるツアー客の導入等を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託及び工事業者については、指名競争入札により選定しており、妥当だと考える。 費目・使途については事業目的達成に必要なものが等について額の確定時において、支出等に関する書類等により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町
------	-----

平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-	登録有形文化財伊古棧橋修復工事事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア
担当部課名	教育委員会 総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	観光リゾート産業の振興
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容
登録有形文化財「伊古棧橋」は、かつては黒島の玄関口として利用されていたが、台風時の波等により崩壊が進んでいる。しかし、浅瀬に突出する延長35.4mの伊古棧橋は面積の小さい黒島において数少ない観光地であり、また珊瑚礁の海に囲まれた黒島の暮らしを象徴する景観地でもあるので、文化財の保全と見学者の安全を図るために本事業において修復工事を行う。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	10,016	-			
	(b)予算現額	27,771	-			
	(c)増減額(b-a)	17,755	-			
	(d)繰越額	-	26,295			
	A.計(b+d)	27,771	26,295			
	B.執行済額	1,476	25,228			
	うち交付金充当額	1,181	20,181			
	次年度繰越額	26,295	-			
	執行率(%) (B/A)	5.3%	95.9%			
	予算の状況の説明	・当初は棧橋の部分的な修復を予定していたが、設計の際に大幅の補修が必要と判断し、予算を増額した。 ・本事業の設計に予定よりも時間を要したこと、実際に着工するまでも業者選定・入札等で時間がかかってしまったため、次年度まで工事延長することになった。				

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
	伊古棧橋の復原整備	目標	(復原整備)	()	()	()
		実績	復原整備完了			
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	・部分的に崩壊していたにもかかわらず、黒島に来島する観光客等の多くは伊古棧橋を訪れており、観光客等来訪者の安全性の確保が必要であった。本事業にて伊古棧橋の修復整備を行い、文化財の保全、観光客等来訪者の安全性の向上を図ることができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			伊古棧橋の復原整備の実施	目標	(復原整備の実施)	()
	実績	復原整備の実施完了				
	[参考指標]	目標	()	()	()	()
実績						
進捗状況説明	本事業にて黒島の有力な観光地である伊古棧橋を整備完了し、文化財の保全並びに観光客の安全を確保できた。今後は他の観光PR活動と関連し、観光入域者数の増加を図る。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・当初は栈橋の部分的な修復を予定していたが、設計の際に大幅の補修が必要になり、工事内容の変更から業者選定・入札に時間を要した。</p>	<p>・過去の事例を踏襲し、設計変更など不測の事態にも対応できるスケジュール等事前準備を行う。</p>

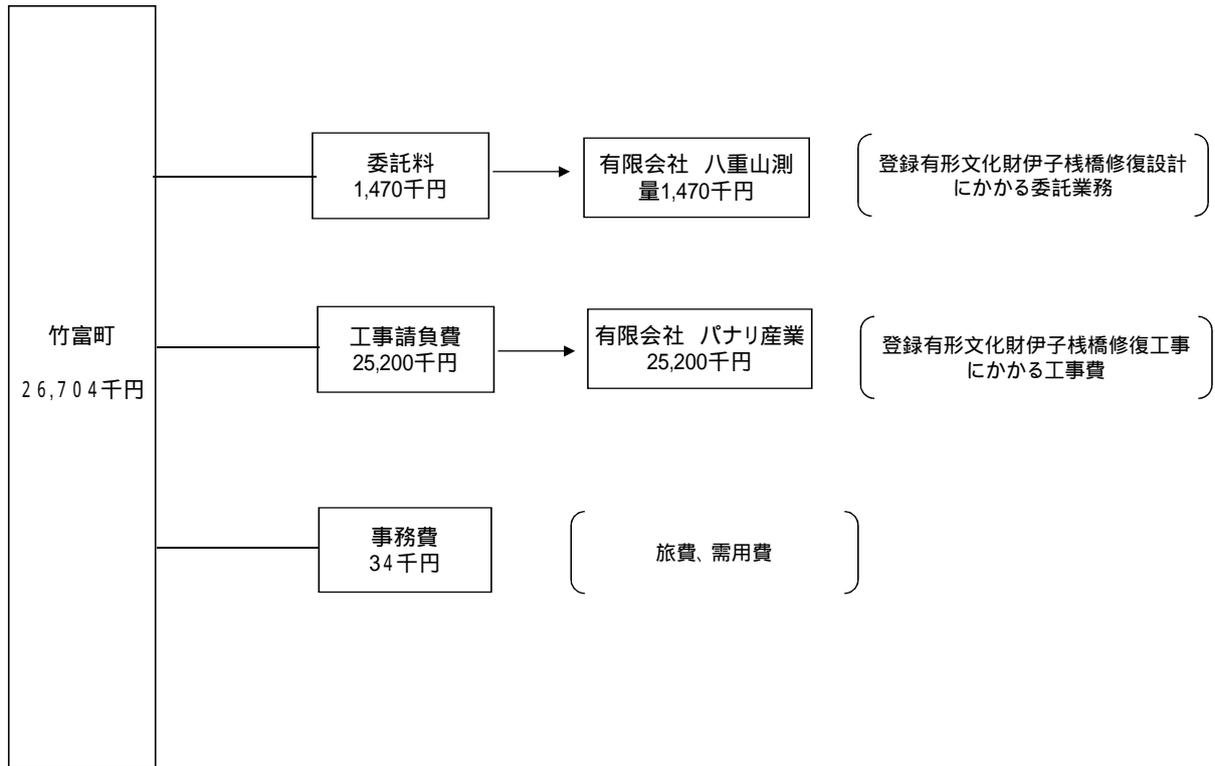
今後の取り組み方針

・沖合354mに渡って一直線に伸びる伊古栈橋は、満潮時にはさながら海の上に立っているような錯覚を与えるほどの絶景であり、部分的に崩壊していたにもかかわらず来訪者が絶えるのとならない観光スポットであった。今回の栈橋整備を機に、今後は定期清掃等を取り入れて景観を保ち、黒島の魅力のひとつとしてあり続ける。

・アベノミクス効果や一括交付金等の執行により、沖縄県内では建設業者の需要が高まり、人員不足・価格高騰などの理由から入札状況が厳しくある。これら外的要因を踏まえ、他事業執行の際にもスケジュール管理等事前準備を確実にし、事業執行に遅延のないようにする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

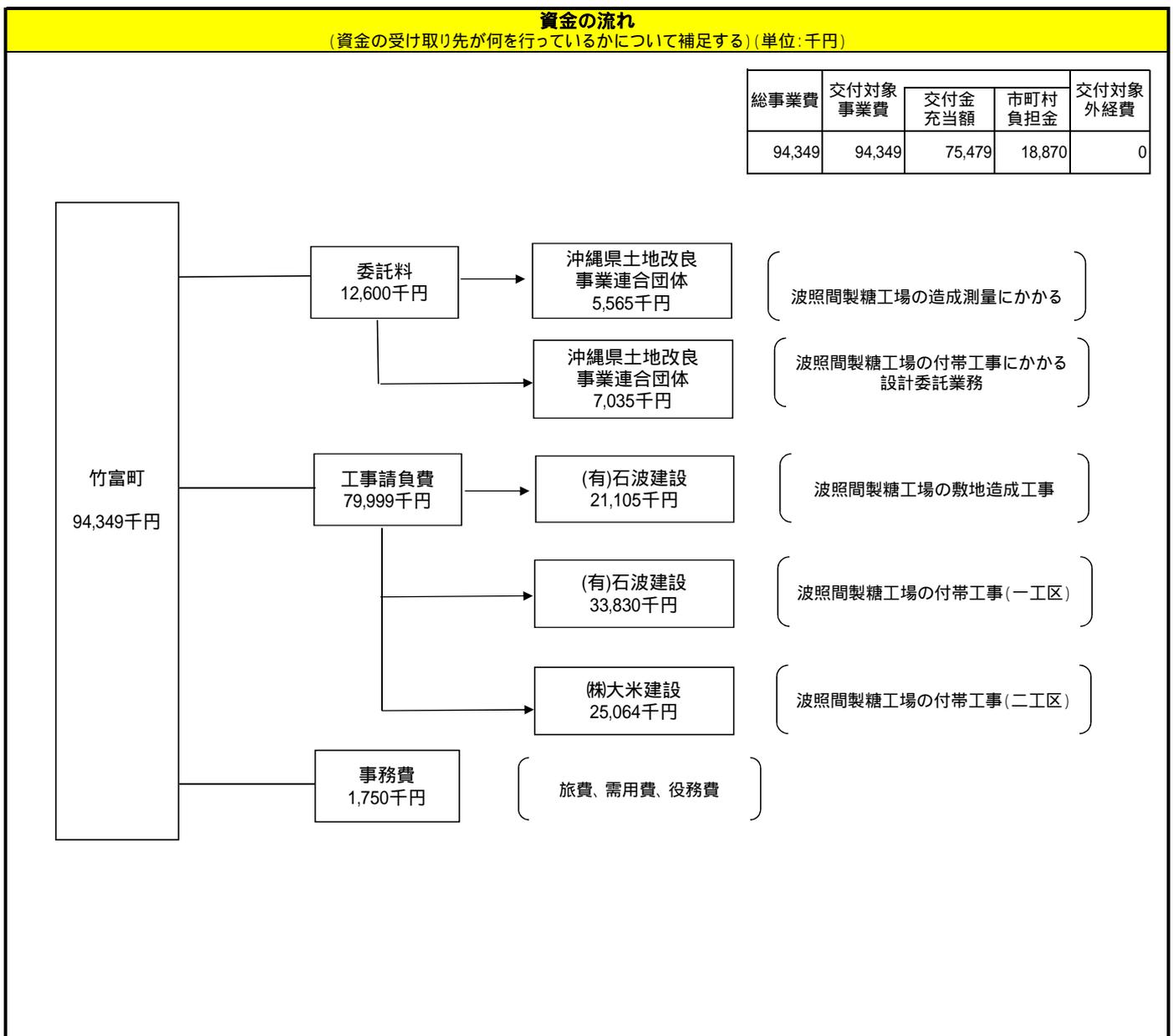
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
26,704	26,704	21,362	5,342	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託及び工事業者は、指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		竹富町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	含みつ糖製糖施設近代化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
担当部課名	農林水産課		事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化 -1-(6)	
事業内容	製糖事業者の安定操業を確保し、地域の基幹産業「さとうきび・糖業」の振興を図り、製糖事業者の経営体質強化につなげるため、製糖事業者が取り組む製造コストの低減、品質向上及び衛生管理の徹底等に資する施設整備をする。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	95,301	-			
		(b)予算現額	95,301	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	61,472			
	A.計(b+d)		95,301	61,472			
	B.執行済額		33,828	60,521			
	うち交付金充当額		27,062	48,417			
	次年度繰越額		61,472	-			
	執行率(%) (B/A)		35.5%	98.5%			
予算の状況の説明		・場内舗装・排水工事の一部に既設の製糖工場があり、平成24/25年度の操業終了が4月にずれ込んだため、工事が遅れ繰越事業となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・波照間製糖施設の整備	目標	(整備実施)	()	()	()	
		実績	整備実施完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・製糖事業者の経営体質強化のための製糖事業者の取り組む製造コストの低減、品質向上及び衛生管理の徹底等のための施設整備等(造成工事、付帯施設工事)を支援し、製糖事業者の安定操業を確保することにより、地域の基幹産業「さとうきび・糖業」の振興を図った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・波照間製糖施設の整備	目標	()	(整備実施)	()	()	()
		実績		整備実施完了			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・製糖事業者の取り組む製造コストの低減、品質向上及び衛生管理の徹底等のための施設整備等(造成工事、付帯施設工事)を支援した。					

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・製糖施設整備等の支援により、製糖事業者の取り組み製造コストの低減、品質向上及び衛生管理、施設管理が徹底されるよう毎年製糖終了後に調査確認する必要がある。	・製糖事業者の取り組み製造コストの低減、品質向上及び衛生管理、施設管理に改善する必要がある場合は検証し改善をおこなう。
	今後の取り組み方針	
<p>・指定管理者から毎年製糖終了後に報告書を提出してもらい、適切に施設の管理運営がされているか確認を行う。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・支出先の選定方法について、工事請負費は指名競争入札、委託費は随意契約にて選定した。随意契約は、安価である公益法人の諸経費率を勘案し選定したため適正と考える。</p> <p>・費目・使途が事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し適切であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	